



金子 保利 議員

コロナ禍の  
救急業務について



**Q** 救急隊員は、119番要請患者と接することになるので、医師、看護師、医療関係職員と同じように、感染リスクが非常に高いと思われる。感染リスクが高い救急隊員をしっかりと守るため、PCR検査や抗原検査を定期的に実施すべきと考えるが、市の考えを伺いたい。

**A** 消防長

救急隊員に対する定期的なPCR検査は行っていません。救急隊員については、医療従事者の一端として、ワクチン優先接種の対象とされていますので、職員の感染並びに感染の媒体とならないよう緊急接種を行うとともに、ワクチンで獲得した抗体の数字が維持されているかの検査も必要であると考えているところです。PCR検査を含む各種の定期的な検査については、専門医の助言を得ながら検討したいと考えています。



田所 良夫 議員(新風)

旗川河川に関する  
本市の危機管理に  
ついて



**Q** 令和2年12月定例会の一般質問における答弁で、JR両毛線鉄橋から稲岡橋の2キロメートル区間において河川計画を策定中とのことだったが、稲岡橋のような橋長の短い橋については架け替えをするのか伺いたい。

**A** 都市建設部長

安足土木事務所にて、策定中の河川改修計画の進捗について照会したところ、現地の測量等は完了しており、現在、計画の詳細についての業務を実施していることが確認できました。  
なお、稲岡橋の架け替えの必要性については、河道掘削などで計画の流量を確保することができない場合、川幅を広げることとなりますので、橋の架け替えを行うことが併せて確認できました。



小倉 健一 議員

防災について



**Q** 佐野市地域防災計画は、平成31年3月策定のものから、このたび改定となるが、見直した佐野市地域防災計画において、修正した重点箇所を含めた内容について伺いたい。

**A** 行政経営部長

令和元年東日本台風の教訓を始め、旗川が水位周知河川に指定されたことに伴う所要の見直しや、避難指示等を発令する際に、警戒レベルを周知することが主な修正箇所です。  
また、市内部における活動体制として、災害警戒本部長を行政経営部長から副市長とし、災害警戒本部及び災害対策本部の各本部長の下に本部長の意思決定を補佐する本部長補佐として、危機管理監を配置すること、震度5強の地震発生時において全職員が登庁し、初動対応するなど活動体制の見直しを図っています。

